

[成果情報名] イガイの身入り度の季節変化について

[要 約] イガイの身入り度は漁期である夏に低く、秋から冬にかけて増加する傾向にあり、性成熟の影響が考えられた。

[部 署] 山形県水産研究所・浅海増殖部

[連絡先] TEL 0235-33-3150

[成果区分] 研

[キーワード] イガイ、身入り度、漁期、産卵期

---

### [背景・ねらい]

近年、アワビやイワガキ等の磯根資源が減少する一方、イガイ（図1）は以前より増加したと複数の地区の漁業者から報告がある。庄内地方では「盆に食べる貝」としての食文化があることから、同種の漁期は7、8月であるが、漁業者から漁期拡大について要望が挙がっている。漁期拡大の可能性を検討するため、身入り度の季節変化を調査した。

### [成果の内容・特徴]

1 2020年10月から2023年2月にかけて、毎月中旬にイガイの身入り度をモニタリング調査した。モニタリング定点は海況が安定していてイガイが密生している酒田港灯台前岸壁の水深1~2mのあたりとし、毎回、約20個を採取した。その中の大型（平均殻高13cm）の10個について、殻高、殻長、殻幅、軟体部重量、殻重量の5項目を測定し、下記の式により身入り度（肥満度）を算出した。また、2022年4月からは軟体部から出た水分を顕微鏡で観察し、卵及び精子の有無を確認した（図2）。

身入り度（肥満度）CI = 軟体部湿重量（g） ÷ {殻長（cm） × 殻高（cm） × 殻幅（cm）} × 100

- 2 身入り度は、6~7月に最低値（平均値）を示し、秋から冬にかけて増加する傾向が認められた（図3、4）。
- 3 卵及び精子は11月から5月にかけて確認され、身入り度が高い時期と概ね一致した。

### [成果の活用面・留意点]

- 1 本県で水揚げされるイガイは主に中銘柄（平均殻高10cm）だが、同種は殻高約4cmから成熟するとされていることから、身入り度の季節変化は今回の結果と同様と考えられる。
- 2 大型になると雌に性転換するとの報告もあるが、今回採取したサンプルの雌雄比は1:1で偏りは見られなかった。
- 3 現在の漁期である7、8月は身入り度の低い時期であることがわかった。今後、味覚（成分分析等）や安全性（貝毒検査等）について調査し、身入り度の高い冬~春期を新たな漁期とする提案ができるかどうか検討する。

[具体的なデータ]



図1 イガイ

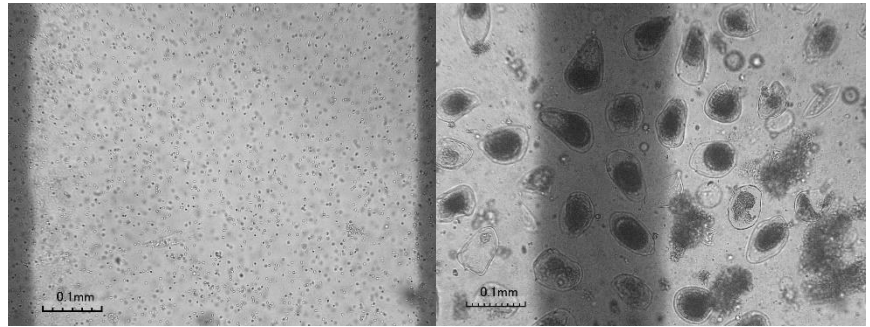


図2 軟体部から出た水分中の精子（左）及び卵（右）

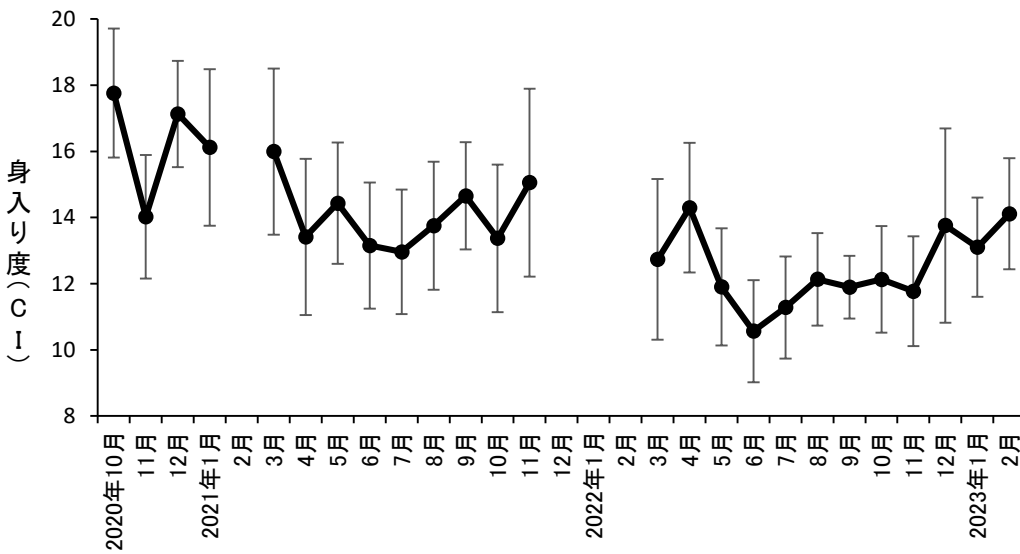


図3 身入り度の季節変化（平均値±標準偏差）



図4 身（軟体部）の状態（左：2021年3月（身入り度 16.0）、右：2021年6月（身入り度 13.2）

[その他]

研究課題名：イガイ資源の有効利用調査  
 予算区分：県単  
 研究期間：令和4年度（令和4～8年度）  
 研究担当者：古山 遥、粕谷和寿  
 発表論文等：なし